

授業科目名	劇場プロデュース実習 1	担当教員	尾西 教彰 藤野 一夫 近藤 のぞみ 井原 麗奈			
必修の区分	選択					
単位数	2 単位					
授業の方法	実習					
開講年次	2年第4クオーター					
講義内容	<p>この科目では、舞台設備のある文化施設で実際に働き、現場の経験を積むことにより、劇場運営に関わる基礎的な職業能力の修得を目的としている。</p> <p>文化施設での仕事は多岐にわたり、機構・設備の維持管理、自主事業の企画制作、利用者（地域のアマチュアから全国規模のプロアーティストまで）への対応、公演当日の会場表方、舞台の安全を担保する裏方など、様々な能力・技術が求められ、各専門家が関わっている。</p> <p>劇場現場での実務体験を通じて、劇場の仕組みを理解し、企画制作、広報・宣伝、地域との関わりなど、劇場・音楽堂等のソフト運営における基礎となる要素を体得し、地域における劇場の役割について理解を深める。</p>					
到達目標	<p>①劇場の初步的な業務を実際に行うことができる。</p> <p>②劇場組織、機構・設備、業務の基本について理解し、説明できる。</p> <p>③来場者や舞台関係者と、前向きなコミュニケーションができる。</p> <p>④劇場の地域における役割について実例を挙げて説明できる。</p>					
授業計画	<p>公益財団法人兵庫県芸術文化協会が管理運営する兵庫県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロシアター）など、舞台設備のある文化施設で約2週間の臨地実務実習を行う。</p> <p>実習前の事前学習として、実習施設を調査し、実習計画書を作成、実習計画書を基に専任教員と学生が面談を行う。</p> <p>実習中は、実習指導者のもと、実際の劇場制作業務に従事し、専門スタッフによるレクチャーを受けることによって、劇場にとってのミッションを理解し、劇場運営の基本を習得する。</p> <p>中間時点及び最終日には、学生による報告会を実施するほか、最終日には劇場施設長等との意見交換会を実施する。</p> <p>事後学習として、学生は実習成果報告書を作成、報告会で発表を行い、劇場制作業務の実践への理解を深めるように、専任教員による助言・指導を行う。</p>					
事前・事後 学習	参加する学生は必ず事前研修を受け、事後に実習成果の報告書を作成し、終了報告会において発表を行うこと。					
テキスト	特になし。					
参考文献	適宜指示する。					
成績評価 の 基 準	実習の態度・日誌（70%）、実習報告レポート・プレゼン（30%）					
履修上の注意 履修要件	<p>全日程に出席できることを参加条件とする。</p> <p>1日の実働時間は8時間（休憩1時間を含む）を基本とする。</p> <p>劇場現場の性格上、業務の必要に応じて変則時間となる場合がある。</p> <p>※具体的なスケジュールは、劇場担当スタッフと相談の上、後日確定する。</p>					

実践的教育	学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。
備考欄	<p>実習受入先の受け入れ人数を越える履修希望者があった場合は、説明会の後に提出を求める「志望理由書」を元に選考して履修者を決定する。</p> <p>尾西 (n_onishi*stdat.at-hyogo.ac.jp)  近藤 (nozomi_kondo*stdat.at-hyogo.ac.jp)  井原 (i.rena*stdat.at-hyogo.ac.jp) [*を@に変更]</p>